

## 協会記事

### 理事会（平成12年度第6回）

平成13年3月14日（水）17:30～20:00、当協会役員室において開催。出席理事：佐藤 久（会長）、前島郁雄（副会長）、肥田 昇（副会長）、大島章一、柏木高明、佐藤 正、嶋崎吉彦、田邊裕、長瀬和雄。出席監事：中野忠直。および岡原事務局長。

・議事録の承認：平成12年度第5回理事会議事録は退会者氏名を記述して承認された。

・報告事項：

#### 1. 編集委員会報告：田邊理事（編集委員長）

110巻1号は印刷総デジタル化による工程変更などのため多少遅れて発刊した。110巻2号「三宅島特集」は編集中。ホームページの「地学雑誌」関連部分については現在試作版を検討中。印刷方法の変更やWeb掲載に関連し、投稿規程の改定を検討中。

#### 2. 広報担当事項および地学史編纂委員会報告：佐藤（正）理事

英文パンフレットの校正刷りができた。とくに意見がなければ印刷にまわしたい。地質科学連合の委員に当協会を代表して伊達委員が入っているが、古宇田亮一会員を追加したい。開催予定のシンポジウムの内容はまだ最終決定に至っていない。

「日本地学史の展開（2）」について、今後毎年1編は地学雑誌に掲載できるようにしてほしい。

#### 3. 会館委員会報告：肥田理事（会館委員長）

去る2月6日に開催された会館委員会の内容が報告され、それにしたがって、12年度の会館会計見通し、[ 防犯監視機能システム ] の設置、13年度予算における一般会計への繰入金増額、ビル賃貸料値上げ交渉の方針、管理委託費の改定などが了承された。

#### 4. 庶務担当事項報告：嶋崎理事（庶務委員長）

選挙（投票状況）の途中経過、紙碑執筆者、ピンク電話機廃止予定などの報告に続き、地質図販売に関する折衝の状況と見通しが報告さ

れた。今後の対応について意見が出たが、さらに検討することになった。

#### 5. その他

長瀬理事（図書委員長）から、図書整備の現状と今後の整理方針について報告があった。

・議 題

#### 1. 会員の入退会の承認

入 会：赤塚政美、加藤 茂、田中 靖、小池司朗、竹野哲夫、葛巻郁夫 6名

退 会：新井 浩 1名（逝去）  
小野慶一、佐藤直行、福岡義隆、柳澤一郎、深石一夫、村岡次郎 6名

#### 2. 選挙開票事務について

嶋崎理事から、開票立会人として同理事のほか、伊達二郎会員他1名を指名する旨の報告がありました。了承された。

#### 3. 平成13年度事業計画および予算について

柏木理事から会計方式を「発生主義」に基づく方法に変更したい旨の発言があり、了承された。事業計画については前回提出された案どおりに決定された。予算については同理事から一般会計予算をさらに絞り込みたい旨の発言があり、検討の結果、3項目について削減することに決まった。

#### 4. 総会、評議員会の開催について

嶋崎理事から平成13年度の評議員会および総会の開催日等について提議があり、5月19日（土）の午後、例年どおり開催することに決まった。新評議員による第2回評議員会については内容についてさらに検討することになった。

#### 5. その他

(1) 長瀬理事から地盤工学会等におけるAPEC技術者の登録に関する問題への対処の紹介があった。

(2) 13年度海外巡検の決定・予告に関し、行事事務委員長のとった方法に対して意見が出された。

(3) 中野監事から協会の業務についての会員の知識を深める方策が必要ではないかとの問題提起があった。

### 東京地学協会第3回海外巡検 「オーロラを科学する」実施報告

第3回目の東京地学協会の海外巡検は、冬季のアラスカを訪ねオーロラや永久凍土について、その成り立ちなどを学ぶことになった。10月の行事委員会で概要を説明し、旅行企画については数社に応札してもらって、そこからこちらの意向に沿った企画案を選択することにした。11月始めに入札を締め切ったが、2社が応札してきた。価格や内容を検討し、野上委員長と相談の上、JTB札幌支店法人営業部に決定した。こうした海外巡検を学会として企画する場合、団体旅行については主催は旅行業者で旅行にかかわる責任を負うものとし、学会は内容・企画面を担当することで役割分担を明確にした。また参加者全員に海外旅行保険に加入するように勧めた。応募の方法は、以前の海外巡検参加者、10月の講演会参加者アンケートなどから、事務局が名簿を作成しそれをJTBに提供して、JTBが参加案内を作成・配布した。

なおこの時点での定員を20名～30名とした。12月末を締め切り日としたが、20名に達しなかったため、1月初めに北海道新聞に小さな記事を掲載してもらったところ、直ちに応募があり23名となった。この時点で応募締め切りとした。

当日までに参加とりやめがあり、実際の参加者は19名であった。年齢構成は10歳から73歳と幅広く、平均は46歳であった。(男性11名、女性8名)。地域別では、北海道9名、関東6名、上信越3名、その他1名であった。JTBからは日本から1名添乗員が随行した。

出発にいたるまでには、現地アラスカ側と緊密に連絡をとった。特に国際北極圏センターの赤祖父俊一所長とは、1月と3月に来日時に準備についての打ち合わせを行った。参加者へは、毎週1回ニュースレターを作成して郵送した。現地での生活情報に加えて、オーロラや永久凍土などの事前知識を解説し、ある程度の予備知識を得てもら

うようにした。後の参加者へのアンケートでも、この事前の情報提供が大いに役立ったことがわかった。

日程・訪問場所は以下の通り。

- ・3月19日 成田発、シアトル経由、フェアバンクス着。午後 アラスカ大学国際北極圏センター訪問、赤祖父博士によるオーロラの講演、その後センターを見学。午後10時 Cleary Summit オーロラ観察へ、午前2時30分に戻る。
- ・3月20日 アラスカ大学博物館見学、その後 FORT NOX 金鉱山見学。午後10時 Cleary Summit オーロラ観察へ、午前2時30分に戻る。
- ・3月21日 FOX 永久凍土トンネル見学、アリエスカパイプライン見学。午後10時 Cleary Summit オーロラ観察へ、午前2時30分に戻る。
- ・3月22日 自由行動日。オプションツアーでスノーモービルと犬ぞり体験。午後10時 Cleary Summit オーロラ観察へ、午前2時30分に戻る。
- ・3月23日 アラスカ氷彫刻フェスティバル会場。その後 アラスカ大学博物館にて Aldona Jonaitis 館長からエスキモー文化などの講演。深夜、フェアバンクス出発。
- ・3月24日 早朝シアトル着。午前8時よりシアトル市内、マリナーズ球場、ボーイング博物館を見学。昼、シアトル発。
- ・3月25日 午後 成田着、解散。

天候その他に恵まれ、見事なオーロラが出現するなど、当初の目的を概ね達成できた。また参加者に事故・病気も発生せず無事に終了することができた。若干の反省点はあるものの、参加者の感想も概ね満足したとあり、安堵している。JTB添乗員や現地通訳などの支援は、こちらの期待以上であり、アラスカ側の協力者と共に、今回の海外巡検の成功を導くことができた。ここに深く感謝の意を表します。また学会事務局には、事務上での支援を受けた。併せて感謝いたします。

福田正己(行事委員:北海道大学低温科学研究所)